

第16回日本ボランティア学習学会第2分科会



第2分科会は、初日に基調講演をしていただいたプロジェクト・トラストスタッフのダグさん、前の日に中国から到着された事務局長のイングリッドさんも急きょ分科会に参加となり、教員、教育研究者、大学生、順天中学・高等学校で活動中のプロジェクト・トラストボランティア2名も加わり、講師と合わせ15名で活発に意見が交わされた。

最初に NPO 法人 good! 代表の磯田浩司さんから、人づきあいが苦手な若者たちを途上国に連れて行き、ワークキャンプという非日常の体験を通して自分と向き合い、新しい一歩となるきっかけづくりを行っている実践が映像とともに報告され、桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部の大野哲也先生から、青年海外協力隊として活動したパプアニューギニアでのエピソードや5大陸を自転車で横断した時の体験をもとに、「グローバル化社会における異文化体験の可能性 ―国際ボランティアと海外放浪の人類学的省察―」として発表いただいた。プロジェクト・トラストのダグさんからは、高校に出かけて行う説明会の時に実際使用しているパワーポイントでプロジェクト・トラストのプログラムについて紹介いただいた。

参加した大学生から「ギャップイヤーで海外に行きたいと親に話すと、費用はどうする、就職はどうすると猛反対される」と話すと、「イギリスも同じ。ほとんどの人がそのまま大学に行き、就職する。何かちがう人生の手ごたえを見つけない人がコール島にやってきて一生の仲間に出会っている」とダグさん。AET として活動真っ最中のボランティアたちが、いまがいちばん充実している、と話す表情がとても印象的だった。

(中家由紀子)